

れつもんぜつ  
**裂紋舌**

舌面に生じた深さ・形・数の一定しない溝や割れ目のあるもの。

**【診断意義】**

**①熱盛傷陰・陰液虧損**

陰液虧損によって舌体が濡養<sup>\*1</sup>できないことで現れる。裂紋舌とともに紅絳舌・瘦薄舌・少苔・無苔が現れるのは熱盛傷陰<sup>\*2</sup>か陰液虧損を示す。治療原則は養陰清熱である。

**②気血両虛**

気血不足によって舌体が濡養できないことで現れる。裂紋舌とともに淡白舌・瘦薄舌が現れるのは気血両虛を示す。治療原則は気血両補である。

**③気陰両虛**

裂紋舌とともに淡紅嫩舌・少苔が現れるのは気陰両虛を示す。治療原則は益氣養陰である。

その他に、裂紋舌とともに淡白舌・胖嫩・齒痕・白膩苔が現れるのは脾虚湿停<sup>\*3</sup>を示す。治療原則は健脾益氣利湿である。

深い裂紋はたいてい長期間にわたる重度の病状を示し、浅い裂紋はたいてい軽度の病状、または病変の前兆を示す。しかし、病によるものではなく先天性の裂紋舌もあるので注意が必要である。

舌苔が厚く乾燥して割れ目が出ることもあるが、これは「裂苔」と呼び「裂紋」ではない。



裂紋舌（熱盛傷陰）



裂紋舌（気血両虛）



裂紋舌（気陰両虛）

\* 1 濡養：潤いをもたせながら養うこと。

\* 2 热盛傷陰：熱邪が盛んになって陰液を傷つける状態。

\* 3 脾虚湿停：脾の水分代謝機能が減退して、水が体内に留まっている状態。

こうかつぜつ  
**光滑舌**

舌苔がなくなり、舌面がツルツルして鏡のように光るものであり、「鏡面舌」とも呼ばれる。慢性疾患・重病久病、また高齢者によくみられる。

**【診断意義】**

**●胃気大傷・胃陰枯絶**

舌苔は胃氣と胃陰により化成されたものである。胃氣・胃陰が虚損して苔の化生ができず、「光滑舌」「鏡面舌」になる。



光滑舌

**①胃陰虛・胃腎陰虛**

光滑舌とともに紅絳舌・乾燥・少津が現れるのは胃陰虛・胃腎陰虛を示す。治療原則は滋陰養胃益腎<sup>\*1</sup>である。

**②胃氣大傷・気血両虛**

光滑舌とともに淡白舌・湿潤が現れるのは胃氣大傷<sup>\*2</sup>・気血両虛を示す。治療原則は健脾養胃<sup>\*3</sup>・益氣養血である。

\* 1 滋陰養胃益腎：胃陰を養い、腎陰を益すこと。

\* 2 胃氣大傷：胃氣（脾胃の消化機能）が大きく傷つく状態。

\* 3 健脾養胃：脾氣を健やかにし、胃陰を養うこと。

こうでんぜつ  
**紅点舌**

舌面に生じた赤い点状の隆起（茸状乳頭が赤く腫れて毛細血管網が拡張し充血するため）で、触っても手に当たらないものである。舌尖・舌辺によくみられる。紅点より大きいものを「紅星舌」と呼ぶ。

ぼうしじせつ  
**芒刺舌**

舌面に生じたとげ状の隆起であり、触ると手にザラザラと突き刺さる感じがする（多くの糸状乳頭が茸状乳頭へ転化したり、茸状乳頭はかなり増殖してとげ状の突起を形成したりする）。舌尖・舌辺・舌中央部に多くみられる。

**【診断意義】**

**●実熱証・臟腑熱盛**

邪熱旺盛によって気血が舌体を上湧<sup>\*1</sup>することにより現れる。黄苔・燥苔を伴うものは気分熱盛を示す。治療原則は清氣泄熱<sup>\*2</sup>・清熱解毒である。絳舌・少苔無苔を伴うものは熱入膏血・気陰已傷<sup>\*3</sup>を示す。治療原則は清膏涼血・清熱解毒である。

また、紅点や芒刺が現れる場所によって、どの臟腑に病変があるかを察知することができる。舌尖紅点・舌尖芒刺は心火上炎を示す。舌尖と舌辺の紅点は心肝火旺を示す。